

“永遠の住まい”という希望

Ⅱコリント 4・16-5・1 (要旨)

説教者 原田憲夫



本日は「召天者記念礼拝&記念会」です。本日の「鍵の語キーワード」は「永遠」です。特に、「地上の住まい」と「永遠の住まい」という<対比>に注目しましょう。cf.伝道者の書7・2

【1】「幕屋」

本日の聖書箇所は、私たちの「生身のからだ」を「地上の住まいである幕屋」と呼んでいます。そしてこの「幕屋」はいつか「壊れる」と語ります。つまりだれでも「死」を迎える時が来ると語るのです。

あなたは覚えているでしょうか。

モーセに率いられてエジプトを脱出したイスラエルの民が、約束の地(カナン)入植までの40年間、「幕屋」生活で荒野の旅をし続けたことを。「幕屋」とは「天幕(テント)」です。初めから「たたまれるべき住まい」です。

・「仮庵の祭」(レビ 23・34-36)-イスラエルの民はこの祭り(礼拝)を通じて「荒野経験の信仰継承」としてしています(レビ 23・43)。「後の子孫がこの荒野での経験を忘れないために毎年刈入れが終わる第7月(刈り)に7日間(後に8日間)仮小屋に住み、厳粛な礼拝をささげます。」

【2】「見えるものではなく、見えないものに目を留めよ」

この「荒野の幕屋/仮庵」の経験は、苦難の中にあるキリスト信者の間でさらに深化され、また純化されます。たとえ「地上の住まいである幕屋」(からだ)が壊れる時(「死」)が来ても、決して一切が終わるのではないと。

いやむしろ、人は「死」によって「人の手によらない永遠の住まい」へ移されるという希望が現実となるのです。

▶今日、私たちは「外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされる」(4・16)という信仰に励まされながら歩んでいるでしょうか。

その私たちにとって大事なものは、パウロが言うように、「見えるものではなく、見えないものに目を留める“信仰”」(4・18a)なのです。

「見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続く」(4・18b)からです。

*見えないものに目を留めよ！

【3】「永遠の住まい」

私たちが見えないものに目を留める時(Ⅱコリント 4・18)、「見えるものによらず、信仰によって歩む」(同 5・7)時、

すなわち、十字架と復活の主イエス・キリストへの信仰に立つ時、はるかに美しい「永遠の住まい」が「天から」私たちに与えられるのです。

「見えないものに目を留める“信仰”によって先に手にするのです(5・7)。

パウロはここで「家、住まい」を「脱ぐ」「着る」と、「着物」に例えながら語ります(5・2-4)。ずいぶんあっさりした言い方です。

つまり、この「地上の住まいである幕屋」に「執着しすぎるな」ということです。

▶死後に「着せて」いただく「永遠の住まい」は、「見えないものに目を留める“信仰”」によって、確かに「着せて」いただけます。その保証が共におられる御霊-助け主です(5・4-5)。

○説教後賛美歌-新聖歌 471 番 歌詞に注目。

【勧め】

J.S.バッハは楽譜の最初にラテン語で「JJ (イェ・ア)」と、そして楽譜の最後に「SDG (リ・デオ・グローリア)」と書いたと言います。

「=イエスよ。助けたまえ。」「=ただ神(キリスト)の栄光のために」・・・これは現代の私たち一人ひとりへのチャレンジです。

あなたの人生に、「JJ」と「SDG」の心をもって生きよ、との主からのチャレンジです。

▶今日、あなたもいつかそれぞれの「地上の住まいである幕屋が壊れる」時が必ず来ることをしっかりと心に刻んでください！

さあ、キリストを信じる人たちに約束される「永遠の住まい」という確かな「希望」をもって、共に祈りつつ、「一時の苦難」が待ち受けるこの地上の旅路を、「信仰によって」歩いていきましょう！

▷「私は あなたの幕屋にいつまでも住み御翼の陰に身を避けます。」詩篇 61・4